

平成 29 年度湖西市総合戦略有識者会議 会議録

開催日時	平成 29 年 7 月 26 日（水） 14：00～15：30
開催場所	湖西市役所 3 階 委員会室
委員	（出席者） 16 人 （欠席者） 3 人 （事務局） 3 人
内 容	
1 開会	事務局 企画政策課長あいさつ 委員長が選出されるまで、事務局が進行を務める
2 委員の紹介	各委員、事務局による自己紹介
3 委員長・副委員長の選出	委員長に竹田 聡委員、副委員長に竹島 清一委員を選出
4 委員長あいさつ（竹田 聡委員長）	<p>愛知大学の竹田と申します。先ほども申しましたが、2011年から豊橋市に住んでおりました、愛知大学に勤務しております。それ以前は13年間浜松市に住んでおりました。そのときは今の常葉大学に勤務しておりました。専門は経済学、特に金融論の研究をしております。行政との関わりは、10数年前からやってきました。浜松市では情報公開・個人情報保護委員会委員、不服審査部会委員、あと行政ではないのですが、浜松観光コンベンションビューローの地域キーパーソンを現在もやっております。あと一番大変だったのは、合併前の舞阪町で市町村合併を考える町民会議委員を2002年から2005年3月までやったことです。そのときは、本当に合併するかどうかというシナリオが全くない中で始めました。市民の皆さんと毎月1回話し合うという会議を行い、合併するかどうかを話し合っていました。特に市役所の方とは会議の前も月2回は会議をして、町民会議を毎月行ってきました。この会議も一生懸命やっていきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p>

5 議事

(1) 総合戦略事業の効果検証について

<事務局>

説明 資料1：湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業効果検証シート

資料2：評価欄の基準

資料3：重要業績評価指標（K P I）一覧

資料6：委員からの意見に対する回答一覧

湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(質疑・意見交換)

<野村委員>

資料6の回答の中のNo. 2の事業通し番号17のところですが、求人が製造業の現場作業系に偏っていることが理由であるとの説明でしたが、これはなぜなのでしょう。

<事務局>

推測にもなりますが、やはり湖西市は製造業が盛んということで、どうしてもそちらのほうに求人が偏ってしまったのではないかと考えております。そういったものを解消するために全体のバランスを取ったり、今後は企業訪問や企業向けイベントを行うことで求人開拓に努めていきたいと考えております。

<飯田委員>

いくつかあるのですが、まとめて言ってもいいですか。まず、事業通し番号19の体験交流型観光の開発のところなんですけれども、（事業）内容のところにはオンパク手法を活用した商品づくりに取り組みということで明確になっているにもかかわらず、事業実績のところにはオンパク以外のことがたくさん書かれています。そして、決算額のところですが、オンパクに関する決算はゼロだと思うんです。次年度以降もオンパク以外の事業を展開していくのであれば、そういう内容に変えていかなければいけないと思います。

次に事業通し番号21の湖西市PR事業ですけれども、湖西市PR事業というのは大変重要な事業だと思っています。継続して事業を実施することで、市として取り組んでいますということをしっかりアピールできると思います。

あと、事業通し番号24の文化の香るまちづくり事業ですけれども、市からの回答の中では応募団体は増えているということですが、私今年プレゼンテーションに参加したんですけれども、3団体か4団体くらいしかなかったと思うんです。実際にどれだけお金を使ってどれだけ実績を上げたかということが評価されるべきであって、応募団体がどれ

だけかということは評価の対象にはならないのではないかと思います。

<事務局>

まず、ひとつめの体験交流型観光の開発のところですが、おっしゃる通り事業実績のところにはオンパクそのものではなく海湖館の維持管理ですとかそういったものがすべて含まれて記載されております。こちらに参考としまして昨年の10から11月に実施した浜名湖おんぱくの実績を記載させていただいておりますが、来年度評価する際にはこちらの評価シートの記載内容について改善していきたいと思います。

続いて湖西市のPR事業についてでございます。総合戦略の中では豊田佐吉翁生誕150年記念事業は完了というかたちになります。湖西市のPR事業をやめてしまうということではなく、市のPRについては今後もウェブサイトや市勢要覧、観光マップなどを活用し発信していきたいと考えているところでございます。来年度はこちらの検証シートに完了した旨記載するという説明をしましたが、ご意見をいただいておりますので、事務局の方で検討します。

最後に文化の香るまちづくり事業についてです。事務局の方では細かい資料は持っておりません。

<野村委員>

事業通し番号40番台のあたりに子育て全般に関する事業がたくさん並んでいます。非常に熱心にこれだけ事業をやられているというのはすごくよくわかります。評価の数値ももちろん大事なんですけれども、適切な情報が市民に届いているか、報道の分野にいるものですから私たちもいろいろと苦労しているんですが、情報がたくさんあればいいということではなくて、困っている人に、適切な情報が届くようにしてほしい。評価に出てこないところではあると思いますが、最終的にはいちばん大事なのかなと思います。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。困った方に、そういった必要な情報を市から適切にPRしていきたいと思います。

(2) 地方創生加速化交付金事業の効果検証について

<事務局>

説明 資料4：地方創生加速化交付金実施計画

資料5：地方創生加速化交付金事業効果検証シート

(質疑・意見交換)

<飯田委員>

一時預かり延べ利用者数のところなんですけれども、たとえばひとりの人が5日間預けた場合には5人というふうになるんですよね。これもひとつの考え方かなと思うんですけれども、実人数というかどれだけの保護者がこの事業を利用したのかということも合わせて併記すると効果が分かりやすいのかなというふうに思います。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。実際の利用者数を把握するためにも、事務局で確認させていただきたいと思います。

<竹島委員>

資料4の一番下に数値目標として合計特殊出生率が1.75とありますが、今現在どれくらいの数値なのかということをお教えいただければと思います。

<事務局>

こちらの合計特殊出生率なんですけど、5年ごとの統計になっておりまして現時点での数値を把握していない状況です。

<河田委員>

一時預かり事業については緊急一時的なお母さんの手助けになっていると思うんですけれども、実際に背景の部分を解決できるかということそこは難しいところがあって、女性の社会進出があって、そういう機会を含めて女性の子育てする楽しさであったりとか、幸せと思えるようこの事業で実現できているのかというのを考えていかなければならないと思います。実際私は今回提案ということで男性の保育力であったりとか、男性がどれだけ母親の(女性の)子育てする楽しさに協力できるのかというところで意見をあげさせてもらったんですけれども、実際にこういった数値的な事業というのが、課題とされるものに対して具体的にどう解消されていくかというのは非常に難しいと思います。子育てに関して言えば、質という部分が非常に大事でして、たとえば子どもの遊びについてもどのような遊び方をするかという質の部分というのが大事なかなと思います。

<竹田委員長>

交付金事業や総合戦略は数値目標を掲げなくてはならないので、どうしても外形的な数値になりやすいということはあるかと思います。事務局の方から何かございますか。

<事務局>

子育てというのは男性女性両方の視点から考えていかなければならないと感じております。子育てについて希望がないと今後の子育てについての見通しもなかなか難しいのではないかと思いますので、そういうところも踏まえて今後の子育て支援事業について考えていきたいと思っております。

<竹田委員長>

数値目標に直結させることが難しい話であっても、事業を考えていくうえでは今のご意見を大いに参考にさせていただきたいと思っております。他に質疑・ご意見等はございますか。

<野村委員>

ちょっと思い出して聞きたいことがあります。こちらの（資料3の）総合戦略のKPIの一覧のところでも、市の子育て支援策についてよいと思う市民の割合ということでアンケートされていて、目標値と実績値を見ると（H31の）目標値をクリアしています。コメントのところにH31の目標値の修正が必要か検討すると書いてありますが、検討するのはこの目標値のままいくかもしれないということなのか。

<事務局>

今いただいた子育て支援策についてのKPIのお話ですが、設問の見直しを行ったことにより大幅な数値の増加があったのではないかと推測してしまして、ただ満足いただいたというのは評価いただいていると思っておりますので、現在の40%という目標値が低いのかということも含めまして適切な目標値にしていくよう考えていきます。

(3) 総合戦略改訂（案）について

<事務局>

説明 資料3：総合戦略重要業績評価指標（KPI）一覧
湖西市まち・ひと・しごと創生総合戦略

（質疑・意見交換）

<野村委員>

刑法犯認知件数をもし変えるのであれば、4.9（件）といった数字がいいのか悪いのか相対的にわからないので、たとえば県内平均はどれくらいなのかというのがあると分かりやすいのかなと思うのですが。

<事務局>

資料を持ち合わせておりませんので、この場ですぐには回答できません。

<竹島委員>

(地域) 防災訓練の参加者数のコメントのところ、継続的というところは9月、12月、3月と年に3回やっている訳ですけども、会議に出ても非常に訓練の内容がマンネリ化しているのではないかというような指摘を受けています。ここに書かれている実践的・効果的な訓練というのは、どんなことを考えているのか具体的にあれば教えていただければと思います。

<事務局>

資料を持ち合わせておりませんので、確認して改めてお知らせしたいと思います。

<竹島委員>

防災の関係で、避難所というのは基本的には小中学校がメインになっていると思うんですけども、そこでの避難所の運営訓練というのが実践では実施されていない部分がありまして。避難所の運営のノウハウというのはやはり実践でやってみないとわからないと思っているものですから、防災訓練の中にできれば実践的な部分の訓練を入れていただければなと(思います)。ぜひ検討していただければ大変ありがたいと思います。

<事務局>

実践的な訓練というのは大変大切であると思いますので、ご意見は防災の担当(危機管理課)にお伝えしたいと思います。

(全体を通して質疑・意見交換)

<河田委員>

今回初めて参加させていただいて、初めて参加した感想というか、初歩的で変な質問になってしまったら申し訳ないんですけども、こういった様々な事業なんですけれども、どれくらい市民のニーズとか市民の思いが反映された事業なのかというところ、あとそれが住みたいと思う若い人たちにスポットをあてた事業になっているかというところ、どれくらい反映されているのかというのが私そもそも初めての参加でイメージしにくかったんですけども、そこらへんについてお伺いできればと(思います)。

<事務局>

市民のニーズということでございますけれども、毎年市民意識調査というものを実施しご意見をいただいております。その中でいただいた意見を活用し、施策を展開してい

るところでございます。また、若い人が住み続けたいと思うようなまちづくりについて、今後、総合戦略の改訂をしていくにあたり、若い方の意見を吸い上げ、反映させていくようにしたいと思います。

<松本委員>

ただいまのお話を聞いていますと、市民に事業が周知されていないというご指摘だと思います。先ほど野村委員のお話にもありましたが、行政は発信が下手ではないかということで、それぞれの事業の中で広く市民の皆さんに周知PRしていくことに欠けているのかなと感じましたので、関係部署の方にも意識するよう伝えていきたいと思っています。

<伊藤委員>

この総合戦略の本来の目的というのが、湖西市の人口を目標値にもっていくという話なんですけれども、なるべく減少しないでそのまま維持できるようにするための施策で、子どもに対して幼児教育ですとか子育て支援事業とかいろいろなものを実施して、湖西市に住んでもらえるようなまちづくりのための会議（であると思います）。細かいところの補助というものに関しては市民にきちんと説明しなくてはいけないんですけれども、あまり多すぎてもごちゃごちゃしてしまって、結局総合戦略って補助金の奪い合いみたいな話になってしまうので。もっとコンパクトにわかりやすく（総合）戦略（有識者）会議としてやっていけたらいいなと思います。行政の中でも他の事業でできないかなというものも入ってしまっているので、一度見直すことも必要かなと感じました。

<事務局>

ご意見ありがとうございました。今回総合戦略の効果検証が初めてということで、資料も含めて委員の皆さんにはわかりづらかった点もあるかと思っています。来年の効果検証については、もう少しわかりやすいものに改善していきたいと思っています。

6 連絡事項

次回の会議は、平成30年5月から7月ごろを予定

7 閉会